～トラブルのいきさつ～

すべての始まりは昨年（２０１５年）１２月１８日（金）の午後１時半ごろ、城ケ島公園の

第２展望台の前で、私と女性の家族（女性と両親）が出会ったことにはじまります。

　私は２０１３年から城ケ島で出会った仲間６人と日替わりで猫の世話（給仕・避妊・病気のケア）をしており、私は金曜日の担当で、その日もいつもの世話が終わり、帰るために第一展望台から公園駐車場に向かっていました。

　公園の中ほどにある第２展望台の前で、女性とご両親の３人が、ペットキャリーを持ち込んで

キャリーの中に餌を置き、猫の保護（捕獲）を試みようとしていました。（添付写真による証明あり）

　その家族が狙っていた猫は、私たちがミルクと名付けている猫でした。

他の猫であれば、野良生活から家猫に保護してくれるのは私たちにとってもありがたい話なのですが、

ミルクには、私たちだけの事情がありました。

私たちの仲間のうち、日曜担当のＨさんは「ミルク」のために毎週東京赤羽から通ってくださっていて、そのついでに他の猫の面倒もみてくださっています。そのＨさんは、ミルクが死んだら通うのを辞めると宣言されているのです。

Ｈさんの存在は、私たちの中でも重要で、避妊手術などの費用のかなりの割合を負担してくださったり、器用に猫の世話に必要な用具を作ってくださったり、各猫の状態をデータ化してくださったりしているのです。

そのような事情のため、ミルクを捕獲されようとしているシーンに出くわした私は、その家族の

父親に話しかけました。

私「猫を保護されようとしているのですか？」

父「ええ、まぁ」

私「その猫はファンが多いので、その猫を保護するのは止めてもらえませんか」

父「・・・・」

そして私は、その猫が１０歳以上の高齢猫であること、その猫のために毎週東京から通っていることなどを話しました。

　そのとき女性と母親とは話しませんでしたが、父親は高齢猫であることが気にかかったのか、ミルクの捕獲をあきらめてくださいました。

　これで一件落着かと思ったのですが、駐車場の方へ帰って行った家族のうち、女性が戻ってきて、

「自分で飼っているわけでもないのに、連れて行かないでくれ、という権利なんかあなたにないでしょ！」

とすごい剣幕で言ってきました。

　先の事情を説明して、こちらの立場への理解を求めようと思ったのですが、聞く耳を持ってくれず、

なお話しかけようとする私に女性は「やめてください！」とか、まるで痴漢でもしたかのような拒絶を見せて、話を聞いてくれず、言いたいことだけを言って駐車場の方へ戻っていきました。

　しばらくして、こんどは父親が戻ってきて、「娘が失礼なことを言ってすみません」と丁寧に言われました。私も「気持ちはわかりますから・・」と言い、父親も駐車場の方へ戻っていきました。

　私にとっては、これが実際の事件のすべてなのですが、後から仲間が駐車場の受付の方から聞いた話によると、それから３０分ほど後（多分１５時頃）にパトカーが公園に来たそうで、女の人から

「公園で餌をバラ蒔いている人がいる」という通報があったために警察が来たそうですが、バラ撒いた餌もばら撒いた人も見つからずに帰ったとのことでした。

　ここで疑問なのが、確かに私は「その猫を連れ帰らないでくれませんか」という無理なお願いを

しました。しかし私は希望を述べただけで、強制（命令）をしたわけではありません。

無理強いをしたわけではないのです。

しかし女性は信じられないほどに憤り、（私の話も聞かず）、「猫を連れ帰らないでくれ」とお願いしたことではなく、「餌をバラ撒いている人がいる」といって警察を呼ぶ、という極端な行動にでたようです。

　正直なところ、この行動は理解できません。

しかも女性は警察に苦情を入れ続けたようで、後日城ケ島公園の園長さんが警察に呼ばれた、と聞きました。

また、トラブルの翌週の金曜には、公園駐車場に止めたバイクに女性の関係者と思われる内容のメモがヘルメットに差し挟んでありました。（添付画像あり・現物も家に保存）

　これらの行為は私の常識からすれば、「その猫を連れ帰らないでくれませんか」というお願いの代償としては過剰な嫌がらせであるように思えてなりません。

　モンスタークレーマー、という言葉が頭をよぎります。

～私が城ケ島の猫の世話をするようになった理由～

私は１９９４年に東京芸術大学　大学院　保存修復技術日本画専攻を修了した日本画家です。

（ホーム・ページURL <http://www.est.hi-ho.ne.jp/tisachito/home-j.html> ）

２０１２年までは、主に花をモチーフに絵を描いていました。

２０１２年の秋に画商さんから「ネコ絵展」への参加を持ちかけられ、猫の取材をするために江の島や

城ケ島を何度も訪れるようになりました。

当時、城ケ島公園の猫たちの世話は、Fさん（２０１５年春に死去）が一人でしていました。

２０１０年までは、年配のご夫婦がメインで世話をされていたと聞いていますが、２０１１年春の震災後の混乱で、高齢を理由に止めてしまわれたそうで、それから半年ほどは島の猫たちの健康状態は悪かったと聞いています。それを引き継がれたのがＦさんで、個人で何十匹のお世話をほぼ毎日のように１年間されました。

始めのうちは、絵を描くための猫の姿を観察で来て満足しておりましたが、猫たちが毛艶もよく人懐こいのは、ひとえにＦさんのおかげであることが見えてきたのです。

ひとりで何十匹のお世話ですから費用は年間１００万円に届こうかという数字です。

（給仕だけでなく、避妊・病の治療のための通院も数知れず）

そこで初めは月に２回くらい、２０１３年の始めから、少しお手伝いのようなものをさせていただく

ようになったのです。

しかしそれから３か月後、Ｆさんは突然猫たちの世話を止めてしまいます。

元々保健所から殺傷処分されるはずの猫を引き取って里親を探すボランティアをされていたので、

原点に戻ったようです。

さて困りました。ほぼＦさんに頼っていた猫たちの世話を、月に２回の私がどうこうできるはずもありません。

そう思っていると、他にもＦさんの手伝いしていた人がいたことがわかり、その人たちと（初めは３人）で週三回の給仕を始めました。歴代のボランティアのおかげで、特に公園の猫たちについては、メスは避妊が済んでおりました。

しかし年間３～４匹は新たに捨てられた猫がおり、そのうちのメスを捕まえて避妊手術を行うことで、私たちは秩序の無い猫の増加を防いできました。

後を託せる人がいれば、私もそろそろ足を洗いたいとは思っていますが、土日はともかく、平日に猫の世話のために城ケ島に訪れてくれる人はほとんどなく、ついに３年が過ぎたところです。

～私たちの活動について～

城ケ島の猫たちの個別ファイルを作り、避妊が済んでいるかどうかなどのデーターをとって

共有しています。

　<http://shima-miura.kikirara.jp/domain/Home.html>

いたずらや虐待、今回のような過剰な攻撃をしてくる人に悪用されないようにパスワード制に

してあり、検索エンジンにかからないような工夫もしています。